

海岸工学委員会  
080618, 土木学会  
議事録：水谷夏樹

委員・幹事の交替  
上野委員 伊藤委員  
福浜委員兼幹事→ 諏訪委員兼幹事  
岸田委員→野田委員

- 前回議事録の確認
- 報告事項（学会賞の推薦，委員会評価・予算額他）
- 第55回海岸工学講演会(海岸工学論文集第54巻)応募論文審査について（間瀬，佐藤）
- 査読者の選定
- 第55回海岸工学講演会の準備状況について（由比）
- 第56回及び第57回海岸工学講演会の開催（会場など）について（横木）
  - ・水戸，次は京都・大阪？
- Coastal Engineering Journal について
  - ・査読状況，購読者拡大策（柴山）
- 研究小委員会等の活動について（沿岸域、津波、数値波動、温暖化適応策、広報各小委員長）
  - ・重点研究課題採択（津波小委：今村、越村）
- 第45回水工学に関する夏期研修会（Bコース）開催について（岡安）
- その他
  - ・会長特別委「地球温暖化特別委」報告
  - ・富山湾高波調査報告（水谷）
  - ・ミャンマーサイクロン被害調査（柴山）5/19速報会56人参加
  - ・国際侵食学会（東京、11月5-7日），Apac 2009(Singapore), Coastal Dynamics 2009(Toranomon), [Breakwaters\(2009 Sep 16-18, Edinburgh\)](#)
  - ・2008 委員会・幹事会 6/18 14:00- , 9/25 14:00- , 11/12 18:00-

## 来年度の編集・出版形態

- (1) 二段階査読を維持，3月アブスト受付 - 10月出版
- (2) 二段階ともに電子査読化，主査制の導入  
(主査 = 幹事，副査 = 編小委非幹事 + 第一段査読者)
- (3) 査読小委を廃止し編集小委に一本化，最終判断は幹事会の責任
- (4) 校正は著者校正1回のみ
- (5) 電子ジャーナル実現まで現在の品質での出版（カラー不可）を維持
- (6) 編集小委内に，電子査読WGと出版形態WGを設置  
後藤，武若，森      間瀬，重松，小林，佐々木，八木
- (7) 海岸工学論文賞（3編程度）を創設，受賞論文はC E Jに推薦
- (8) 技術委託費約50万円 / 年以下を想定  
(株)ジュオン

→ 11月の講演会(委員会承認後)に概要をアナウンス

## 海岸工学論文集第55巻第1段審査結果報告

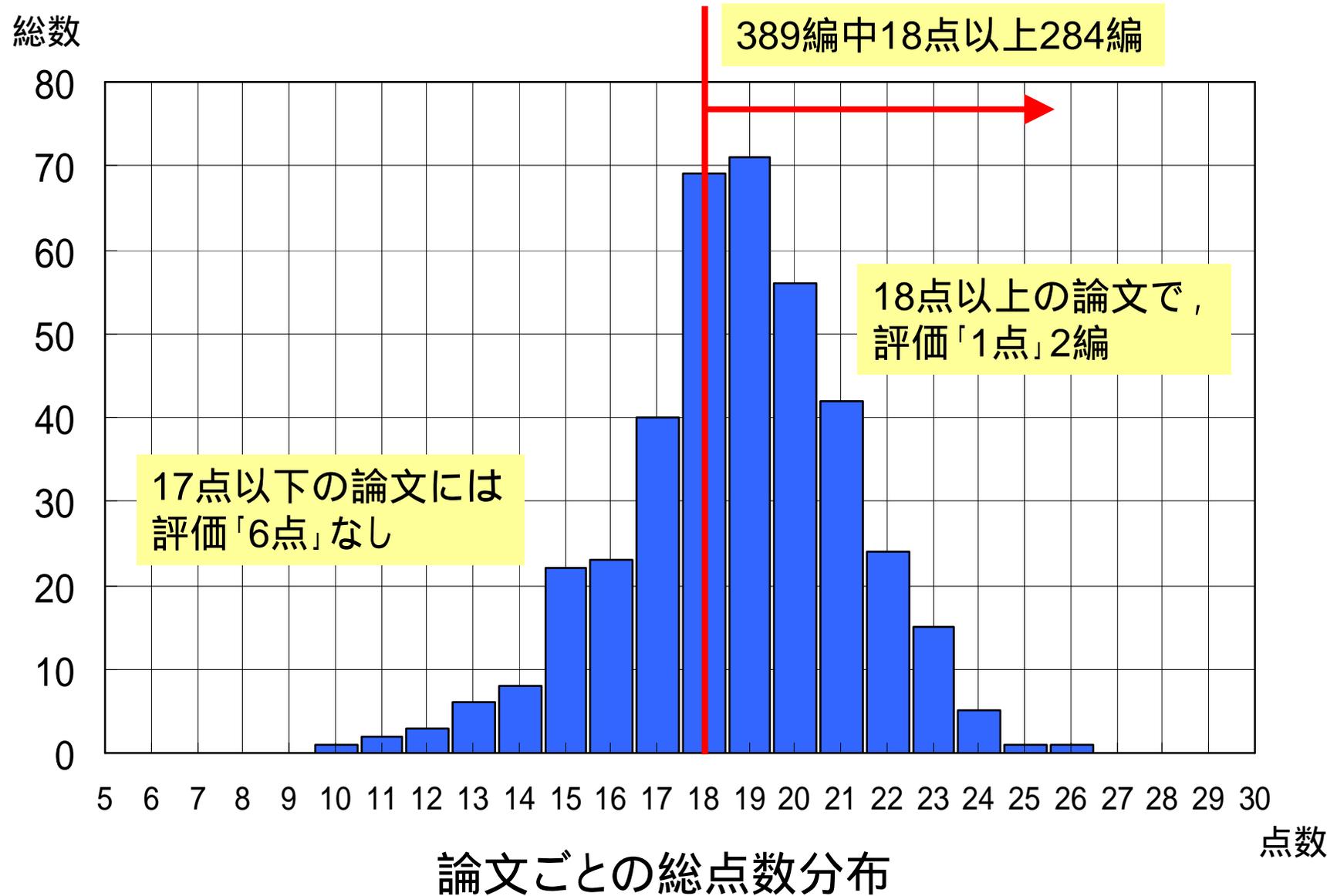
### 最終審査結果

第1段審査通過論文数： 305編

・評価点18点以上の論文 284編

・評価点17点の論文 21編 ( = 40編 -  
15編 - 4編 )

## 海岸工学論文集第55巻第1段審査結果報告

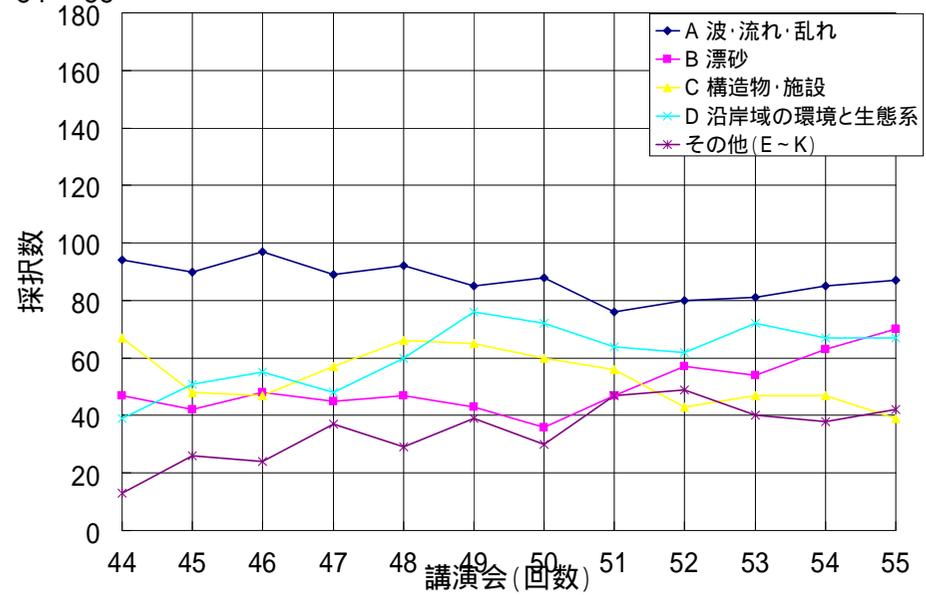
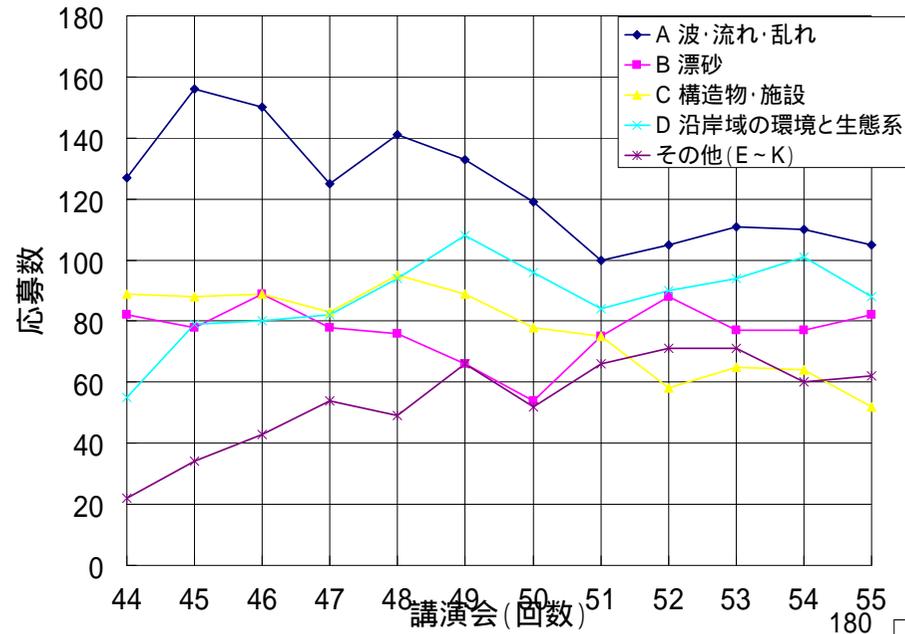


# 海岸工学論文集第55巻第1段審査結果報告



採択率	
55巻	78.4%
54巻	72.8%
53巻	70.2%
52巻	70.6%
51巻	71.7%
50巻	66.7%

# 海岸工学論文集第55巻第1段審査結果報告



## 海岸工学論文集第55巻第2段審査

### 今後のスケジュール

- 5/23 第2段審査論文提出締切
- 5/24 論文集編集小委員会, 第2段査読依頼
- 6/06 査読報告締切
- 6/13 査読報告総括締切(主査)
- 6/16 論文集編集小委員会・小委員長が査読結果を確認
- 6/19 第2段査読結果の一斉通知
  - A: 最終原稿を郵送提出
  - B: 修正原稿をweb提出, 主査が確認後, 最終原稿を郵送提出
  - C: 修正原稿をweb提出, 主査が再査読の要の有無を確認(判定後AかD)
    - 最終原稿を郵送提出
  - D: 論文集編集小委員会・委員長等が確認のうえ返却

# 海岸工学論文集第55巻第2段審査

## 第2段審査後の原稿提出について

### (1) 提出期日

平成20年6月30日 : A判定論文提出(学会へ郵送)

平成20年6月30日17:00 : B, C判定論文の修正原稿提出(web)

### (2) 提出物および提出方法

#### a) 第2段審査時

pdfファイル 海岸工学委員会HPより電子投稿(修正報告書)

#### b) 第2段審査後(A判定論文)

・pdfファイル (整理番号.pdf)

・テキストファイル(整理番号.txt)

・図・表・写真などの電子ファイル

図 (整理番号-fig-図番号.拡張子)

表 (整理番号-tbl-表番号.拡張子)

写真(整理番号-pht-表番号.拡張子)

・原稿提出明細書(整理番号.doc)

# 海岸工学論文集第55巻第2段審査

削除(二重登録のため)一段は両方とも同じ点数で合格していた

- P0376

辞退

- P0053 水面波を伴う風波発達に関する実験的研究 辻村太郎 筑波大学大学院 京藤敏達 筑波大学
- P0197 東京湾岸開発による内湾の物理環境影響に関する一考察 佐々木 淳 横浜国立大学 高柳雅俊 横浜国立大学大学院 柏原英広 横浜国立大学大学院
- P0377 富栄養化海域での護岸付着生物剥ぎ取りによる生物多様性向上効果に関する研究 三好真千 徳島大学大学院 上月康則 徳島大学大学院 山中亮一 徳島大学大学院 石田達憲 徳島大学大学院 山口暢洋 徳島大学大学院 坂本明雄 徳島大学工学部 坂下広大 徳島大学工学部 五島幸太郎 総合科学株式会社
- P0387 新潟県中越沖地震津波に関する現地調査および波源の推定 高橋智幸 秋田大学 今井健太郎 秋田大学大学院 小沼知宏 秋田大学大学院
- P0389 筑後川感潮河道の地形変化が塩水遡上と高濁度水塊に及ぼした影響 横山勝英 首都大学東京 宮崎晃一 首都大学東京大学院 鈴木伴征 株式会社アイ・エヌ・エー
- P0403 砕波による海中への炭酸ガス輸送速度とメディア依存性 大塚淳一 北海道大学大学院工学研究科 渡部靖憲 北海道大学大学院工学研究科

D判定

一件

305-1-6-1=297編



## 海岸工学論文集第56巻査読者リスト

## 幹事

磯部雅彦  
 横木裕宗  
 岡安章夫  
 間瀬肇  
 橋本典明  
 栗山善昭  
 後藤仁志  
 高木利光  
 今村文彦  
 佐藤慎司  
 榊山勉  
 柴山知也  
 重松孝昌  
 森信人  
 水谷法美  
 清水琢三  
 青木伸一  
 川崎浩司  
 中山哲蔵  
 田中昌宏  
 藤原広和  
 灘岡和夫  
 日比野忠史  
 富田孝史  
 武若聡

木村克俊  
 由比政年

## 委員

伊藤一教  
 宇都宮好博  
 古川恵太  
 五明美智男  
 黒木敬司  
 坂井伸一  
 山本泰司  
 小林智尚  
 水谷夏樹  
 清野聡子  
 村上啓介  
 大山巧  
 大平一典  
 丹治肇  
 池谷毅  
 半沢稔

## 編集小委

越村俊一  
 加藤茂  
 関本恒浩  
 原田英治  
 鯉淵幸生  
 荒木進歩  
 黒岩正光  
 佐々木淳  
 斎藤武久  
 山田文彦  
 松山昌史  
 上野成三  
 信岡尚道  
 中川康之  
 長谷部雅伸  
 田島芳満  
 渡部靖憲  
 藤間功司  
 畑田佳男  
 八木宏  
 平山克也  
 北野利一  
 野口賢二  
 陸田秀実

## その他

伊福誠  
 永井紀彦  
 下迫健一郎  
 加藤史訓  
 河合弘泰  
 河田恵昭  
 角野昇八  
 岩田好一郎  
 喜岡涉  
 吉田明德  
 原文宏  
 後野正雄  
 高山知司  
 堺茂樹  
 三村信男  
 山下俊彦  
 山下隆男  
 柴木秀之  
 酒井哲郎  
 出口一郎  
 勝井秀博

松見吉晴  
 松原雄平  
 松富英夫  
 真野明  
 水口優  
 西隆一郎  
 泉宮尊司  
 浅野敏之  
 前野詩朗  
 足立久美子  
 滝川清  
 谷本勝利  
 池野正明  
 中村孝幸  
 中村由行  
 中野晋  
 仲座栄三  
 辻本剛三  
 田中仁  
 渡邊晃  
 島田広昭  
 藤原建紀  
 二瓶泰雄  
 平石哲也

## 論文ごとの評価点

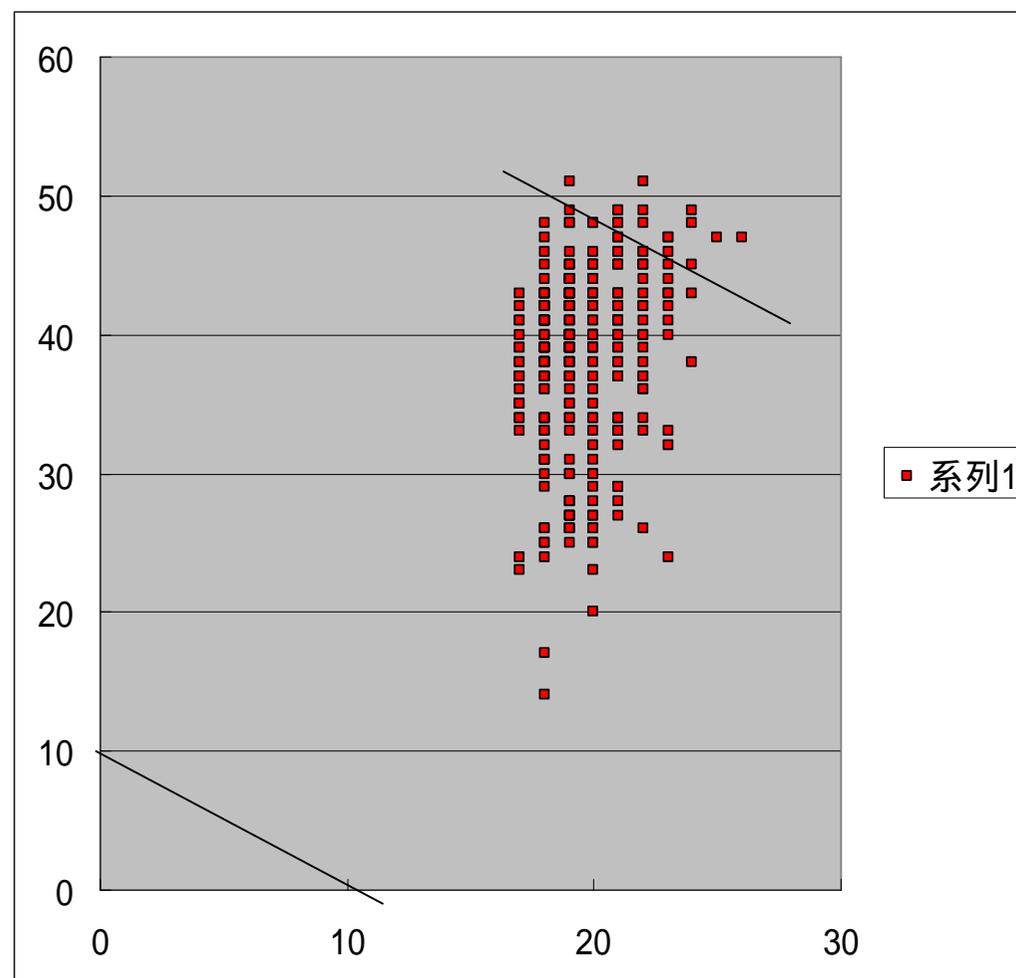
最高点73点

71点以上6編

70点以上15編

最低点39点

第二段

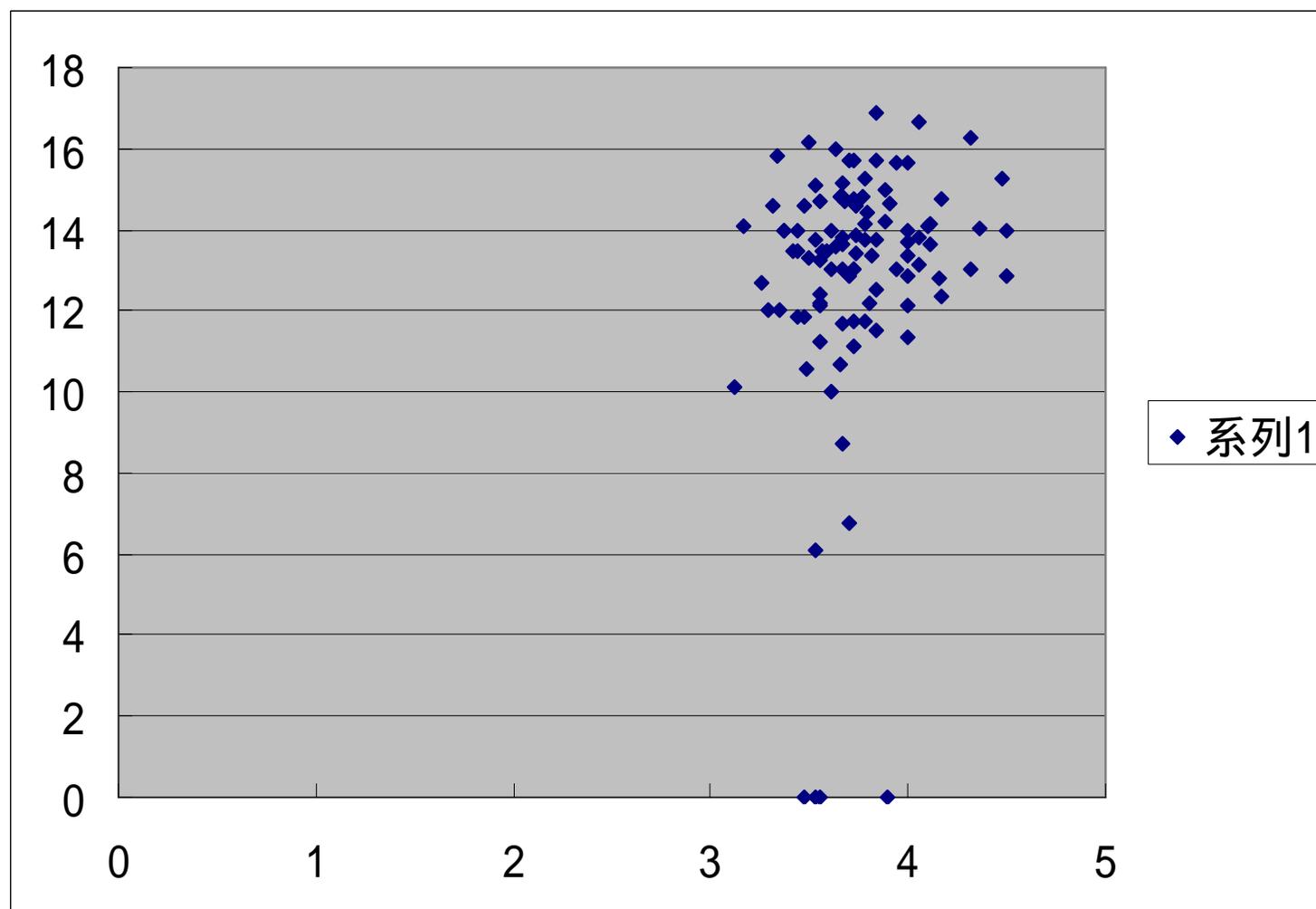


第一段

# 査読者ごとの評価平均点

絶対評価であるが、  
第一段は平均3.5点  
第二段は平均14点  
になるようあらかじめ調整してもらう

第二段



第一段

## 来年度の編集・出版形態

(5) 電子ジャーナル実現まで現在の品質での出版（カラー不可）を維持

- カラーの図をモノクロにするのが苦痛
- 保管用の論文集は部局に一冊が良い。本を置くスペースがない
- 内容だけでなく見た目も大事

■ モノクロかカラーか？

■ 紙媒体の販売冊数、品質、価格（一冊5万円で限定60冊？）

- 1 . 現在の形態を維持、モノクロ、CDなし
- 2 . 現在の形態 + CD モノクロオフセット + CD(海洋開発)は考えない
- 3 . カラーPDF印刷 + CD カラーオフセットよりPDF印刷の方が安い？
- 4 . 2ページアブストラクトのみをカラーPDF印刷 + CD

収入		支出		$\frac{vL}{v}$	$\frac{vL}{v}$
著者負担金	9,000	論文集印刷	6,500		
広告収入	2,500	会場費など	2,500		
論文集売り上げ	(2,000)	受付システム	500		
		学会上納金	2,000		

## 第56回海岸工学講演会の開催について

(茨城大学 横木裕宗)

### 第56回海岸工学講演会実行委員会の立ち上げ

メンバー(敬称略): 三村(茨城大), 横木, 信岡(茨城大), 武若, 庄司(筑波大), 栗山(港空研), 諏訪(国総研), 中山(水工研), 半沢, 松本(不動テトラ), 関本, 金山(五洋), 松浦, 寺家, + 1(茨城県)

第1回実行委員会開催(2008年3月26日 15:30 ~ 17:00 於 茨城大学水戸キャンパス)

開催時期: 2009年11月18日(水) ~ 20日(金)

会場: 茨城県立県民文化センター(茨城県水戸市, 予約済み)

(小ホール(460), 集会室(120, 150, 100, 60)の5会場 + 集会室(10, 10, 24, 10))

要検討事項:

- (1) 見学コース(2コースを検討中)
- (2) 懇親会会場(水戸駅周辺のホテルなど)
- (3) 予算・援助制度(会議開催誘致制度などがない)

今後の予定

- ・会場の詳細, 予算
- ・見学コースおよび実施体制, 日程など

「津波被害推定ならびに軽減技術研究小委員会」

委員長：今村文彦 副委員長：菅野高弘・富田孝史

幹事長：藤間功司

委員数：61名

期間：2003.7~2009.6

活動概要

1) 目的

2004年12月にスマトラ沖地震・インド洋津波による大災害が発生し、我が国においても南海トラフでの地震および津波の被害が懸念される中、被害推定や軽減技術の開発は不可欠の検討項目となっている。本小委員会では、土木学会での横断的な組織を作り、津波予測技術の開発（発生：地震、地滑り、伝播、遡上）、被害推定・軽減技術（浸水域、流体力、家屋強度、インフラ、避難・情報）の開発を進める枠組みをつくることとする。

2) 活動概要

各メンバーは以下の分科会に所属（複数可）し、研究テーマを実施する。

第1分科会「波力」（主査：藤間功司）；第2分科会「土木構造物の津波防災デザイン」（主査：富田孝史）；第3分科会「土砂移動モデル」（主査：高橋智幸）；第4分科会「漂流物」（主査：水谷法美）；第5分科会「被害」（主査：越村俊一）；第6分科会「防災教育」（主査：原田賢治）；第7分科会「調査体制」（主査：今村文彦）

平成19年度活動報告

1) 委員会・WG活動等

・第1回委員会 H19/5/22(火) 土木学会にて

今後の研究テーマの募集，ソロモン諸島津波調査報告

・第2回委員会 H19/8/1(水) 海運クラブにて 新WGの決定

WG1(主査：藤間)：波力(実験データの整理と各理論やモデルの適用範囲)

WG2(主査：富田)：土木構造物の津波防災デザイン(橋，道路，鉄道，河川，下水処理場，発電所など)

WG3(主査：高橋)：土砂移動モデル(侵食と堆積)

WG4(主査：水谷)：漂流物の評価と対策

WG5(主査：越村)：直接被害(被害関数)と間接被害(復旧に長期間必要)，環境への影響評価(生態系の破壊，油汚染など)

WG6(主査：原田)：防災教育(教材の出版)とアンケート調査

WG7(主査：今村)：調査体制

・第3回委員会 H19/11/8(木) 宮崎観光ホテルにて 新WGの活動報告など

2) 行事等

・ACECC津波TC 第4回アジア土木技術国際会議Special Forum(H19/6/26 台北)

平成20年度活動計画

1) 委員会・WG活動等の予定

委員会を3 - 4回程度行なう予定。7つのWGに別れ，それぞれの研究を実施。

平成20年度「重点研究課題（研究助成金）」申請書

代表研究者名：原田賢治(人と防災未来センター,主任研究員,32)(参画委員数:合計 13名)

(所属機関,役職,年齢を併記のこと)

研究課題名：津波防災教育体系の確立

研究の体制:

(所属機関,役職,年齢を併記のこと)

今村文彦(東北大学,教授,46)

富田孝史(港湾空港技術研究所,上席研究官,42)

原田賢治(人と防災未来センター,主任研究員,32)

諏訪清二(兵庫県立舞子高校,教諭,47)

安倍祥(社会安全研究所,研究員,28)

中野晋(徳島大学,准教授,52)

阿部郁男(東北大学工学研究科,共同研究員,40)

岡安章夫(東京海洋大学,教授,46)

藤間功司(防衛大学校,教授,47)

越村俊一(東北大学,准教授,35)

舩木伸江(神戸学院大学,講師,31)

後野正雄(大阪工業大学,教授,51)

山本吉道(東海大学,教授,51)

必要経費:合計 1,000 千円

**80万円**

内訳

人件費 : 0千円(内容 )  
 資料費 : 0千円(内容 )  
 調査費 : 0千円(内容 )  
 旅費交通費: 600千円(内容:ワークショップ・打ち合わせ交通費他)  
 消耗品費 : 150千円(内容:ワークショップ関係文具他)  
 通信費 : 0千円(内容: )  
 印刷製本費: 200千円(内容:津波防災教育コンテンツ印刷費他)  
 借料・損料: 50千円(内容:会議室料他)

## 沿岸域研究連携推進小委員会 活動報告

委員長 豊橋技術科学大学 青木伸一

平成19年度第2回小委員会（宮崎観光ホテル）

平成19年11月8日（木）11時40分～12時40分

出席者：出席者：日比野，上野，片倉，田中，栗山，加藤，石川，堀口，佐々木，高木，西，小林，上月，灘岡，八木，細井，原，中山，青木

配布資料：海岸の安全利用に関する現地調査関連資料

議事：相良での調査結果の報告と議論

ヘッドランドの危険性について建設会社にも問い合わせあり 学会としての取組み必要

ヘッドランドでの事故を体験したことがある，構造物がある方が危ない，T型突堤の問題

現状のまとめ，性能項目，評価法などの提案をすべき

事故例のデータベース作り，事故のdetailを突き詰める必要あり

危険性の考え方（危険状態の変化が問題か？），実験データは多くあるのではないか？

第19回沿環連ジョイントシンポへの協力

テーマ「うみと環境教育」 世話人：今井一郎（京大院・農），清野聡子（東大院・総合文化）

開催日：2008年3月16日（日） 会場：京都大学農学部総合館大講義室

## 1. うみと環境教育：概論

うみ好きがつながる環境教育・生涯学習・市民調査 清野聡子（東大院・総合文化）

## 2. 大学における取組み

学生を連れてフィールドへ行こう 山下 洋（京大・フィールド研）

## 3. 自治体機関による取組み

大阪府水産技術センターにおける環境教育の現状と問題点 有山啓之（大阪環農水総研）

## 4. 博物館・水族館の取組み

宮島水族館における環境学習 石岡宏子（宮島水族館教育ボランティア）

琵琶湖博物館にとって環境教育とは何か？ 大塚泰介（琵琶湖博物館）

## 5. 民間会社の取組み

大阪湾における環境学習と地域のあり方 岩井克巳（日本ミクニヤ）

## 6. 漁協の取組み

大阪の海・街・川をめぐる環境教育 北村光弘（大阪市漁協）

## 7. NPOの取組み

海・人・地域をつなぐ中津干潟の環境学習 足利由紀子（水辺に遊ぶ会）

市民・ダイバーとして取り組む環境教育と大阪湾再生活動 関藤博史（CAN環境教育技術振興会）

市民調査による漂着ごみ問題への取組み 小島あずさ（JEAN/クリーンアップ全国事務局）

### 1. ウェブの移設（2008年1月より運用）

論文受付用にレンタルしているサーバ内に海岸工学委員会のページを移設。関係者が迅速に内容を更新できるよう、PukiWiki を用い運用。  
ブラウザの種類により、表示上の問題がある（対応は困難）。

### 2. 海岸工学データベース移設の準備

現在、岐阜大学のサーバで運用されている海岸工学データベースを、海岸工学委員会のサーバに移設する準備を行っている。

Vol.54の論文データ(題目、著者、文書データ等)は、印刷業者より提供を受けた(有料、約10万円、1論文あたり約300円、経費がかかることについては委員会で承認済み)。納期が遅かったものの、契約内容に沿ってデータの作成・納品がなされた。

### 3. 海岸災害ライブラリに関する検討

幹事長より、海岸災害の情報を収集・整理・アーカイブすることについて検討の提案があった。メンバーで意見交換を行い、実現の可能性について検討中（進捗状況）。

## 地球温暖化適応策検討小委員会活動報告

### 1. 活動状況報告

(小委員長 横木裕宗)

(1) 第1回委員会 (2007年12月8日13:00～17:00 於東京大学工学部1号館, 28名出席)

話題提供: (1) IPCC第4次報告書の概要(横木), (2) 海岸保全技術の技術上の基準(栗山, 福濱), (3) 港湾施設の技術上の基準(河合, 関本), (4) 適応策の考え方(磯部)

(2) 第2回委員会 (2008年2月9日13:00～17:00 於東京大学工学部1号館, 34名出席)

話題提供: (1) 気候変動に対する海岸保全施設の戦略的対応に関する一考察(岡安), (2) 地球温暖化と津波(松富), (3) 海岸事業制度の概要(印藤), (4) 水関連災害分野における地球温暖化に伴う気候変動への適応策のあり方について(泊)

課題の整理・方向性の議論

海岸工学委員会からの提言案作成(予定)

メンバー, 議事録はウェブページで公開(広報小委員会へ依頼)

### 2. 副委員長および幹事団の提案

副委員長: 小林委員(岐阜大)

幹事: 【構造物担当】 関本委員(五洋建設), 岡安委員(東京海洋大)

【外力, 環境担当】 栗山委員(港空研), 武若委員(筑波大)

## 会長特別委員会「地球温暖化特別委員会」幹事会報告

横木裕宗(地球環境委員会幹事)

第1回幹事会(2008年4月3日15:00～16:30 土木学会AB会議室)

### 設立経過説明

土木と地球温暖化対策(土木が貢献できること),土木学会の取り組み  
常置委員会の守備範囲を超える分野横断的な課題に取り組む.

### 委員会構成と幹事会構成

3つの小委員会(温暖化影響(三村),緩和対策(花木),適応策(山田))

### 地球環境委員会委員と幹事

+ 関連委員会からの推薦(海岸工学委から横木)

アドバイザー会議(委員長(会長),小委員長,

幹事長(地球環境委員長),アドバイザー)

### 活動計画について

学会誌特集企画(7月号)

シンポジウム計画(6月下旬から7月上旬,半日,東京,300人規模)

一般向けパンフレット作成(講演概要集+程度)

全国大会研究討論会(土木界から地球温暖化対策への提言)

最終報告書

その他:

関連委員会との連携(海岸工学委員会では適応策小委)

地球環境委員会の位置づけ:今年では会長特別委の活動に集中

期 日：2007年8月5日(火)～6日(水)

場 所：東京大学工学部(本郷キャンパス)2号館

Bコーステーマ：気候変動の海岸防災への影響(仮題)

プログラムおよび講演者(予定)

1日目：気候変動と外力変動

1. 地球温暖化の現状とIPCC報告 茨城大・三村先生

2. 最新GCMと予測の不確定性 東大・阿部先生

3. 海水温の上昇と台風の巨大化 電中研・筒井氏

4. 海面変動・波浪変化のモニタリング 徳島大・中野先生

2日目：気候変動と防災対策

5. 日本における沿岸災害の歴史 沿岸センター・高山先生

6. 地球温暖化と港湾施設の安全性 港空研・河合氏

7. 沿岸域におけるリスクの経済評価 名城大学大野先生

8. 地球温暖化に対する省庁の取り組み 国土交通省海洋開発  
官 泊氏